

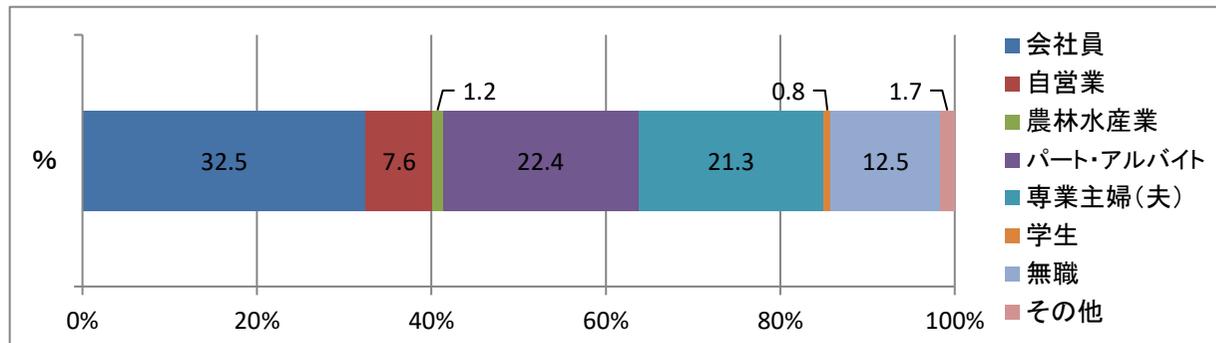
女性活躍推進に関することについて

- 調査期間 令和2年1月20日～令和2年1月31日
- 調査の趣旨 女性活躍推進に関することについて、皆様のご意見をお聞きます。
- 対象者数 784 人(令和2年1月20日現在)
- 回答者数 606 人
- 回答率 77.3 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

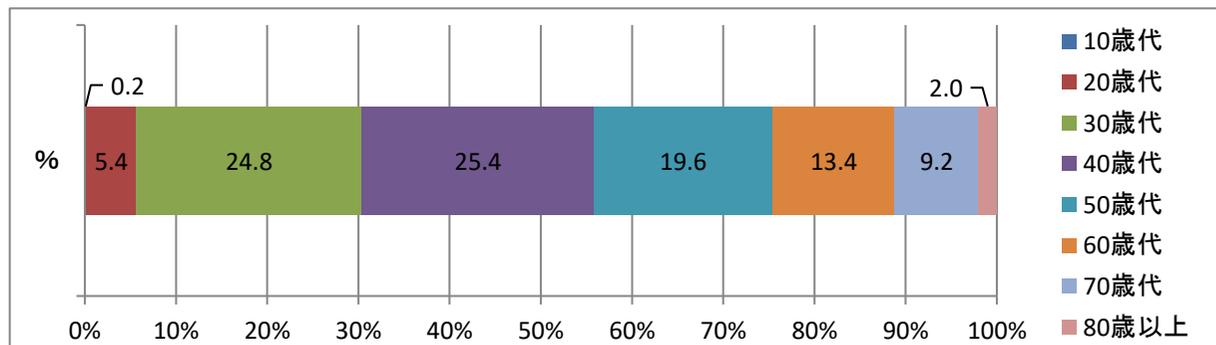
【職業】

内訳	人数	%
会社員	197	32.5
自営業	46	7.6
農林水産業	7	1.2
パート・アルバイト	136	22.4
専業主婦(夫)	129	21.3
学生	5	0.8
無職	76	12.5
その他	10	1.7
合計	606	100.0



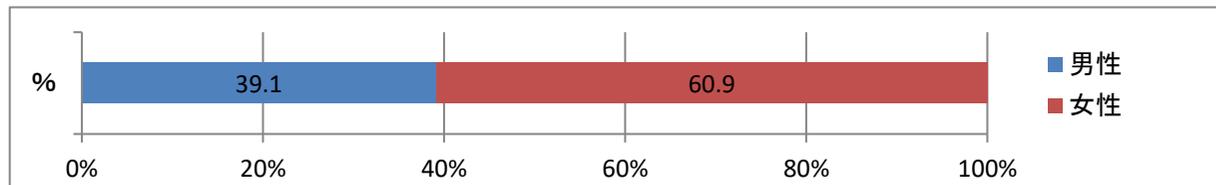
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	1	0.2
20歳代	33	5.4
30歳代	150	24.8
40歳代	154	25.4
50歳代	119	19.6
60歳代	81	13.4
70歳代	56	9.2
80歳以上	12	2.0
合計	606	100.0



【性別】

内訳	人数	%
男性	237	39.1
女性	369	60.9
合計	606	100.0

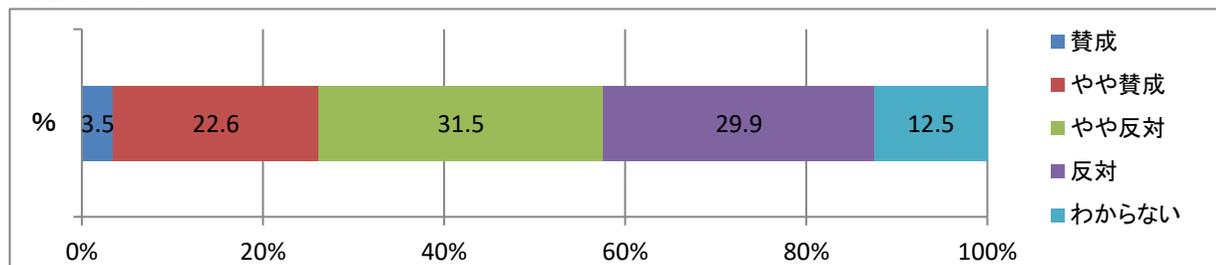


【導入】

女性活躍推進に関することについて、皆様のご意見をお聞きます。

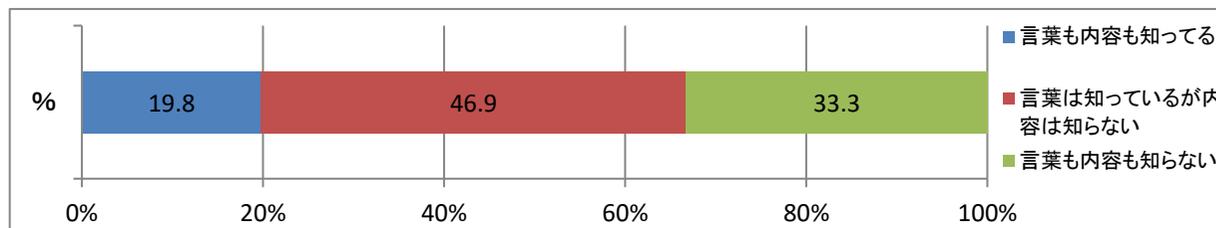
【問1】「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方についてどのように思いますか？

内訳	人数	%
賛成	21	3.5
どちらかといえば賛成	137	22.6
どちらかといえば反対	191	31.5
反対	181	29.9
わからない	76	12.5
合計	606	100.0



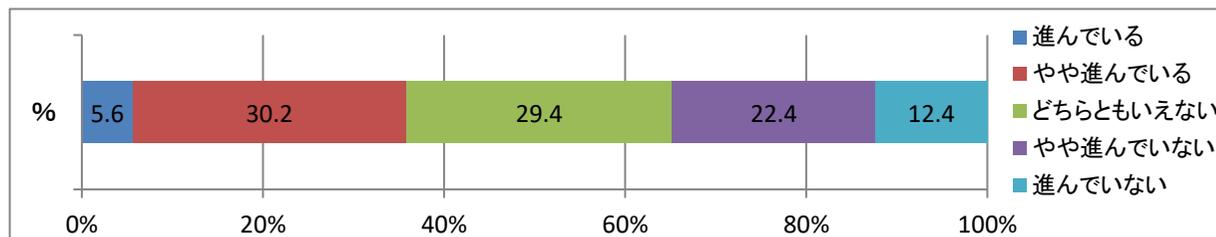
【問2】「女性活躍推進法」について知っていますか？

内訳	人数	%
言葉も内容も知っている	120	19.8
言葉は知っているが内容は知らない	284	46.9
言葉も内容も知らない	202	33.3
合計	606	100.0



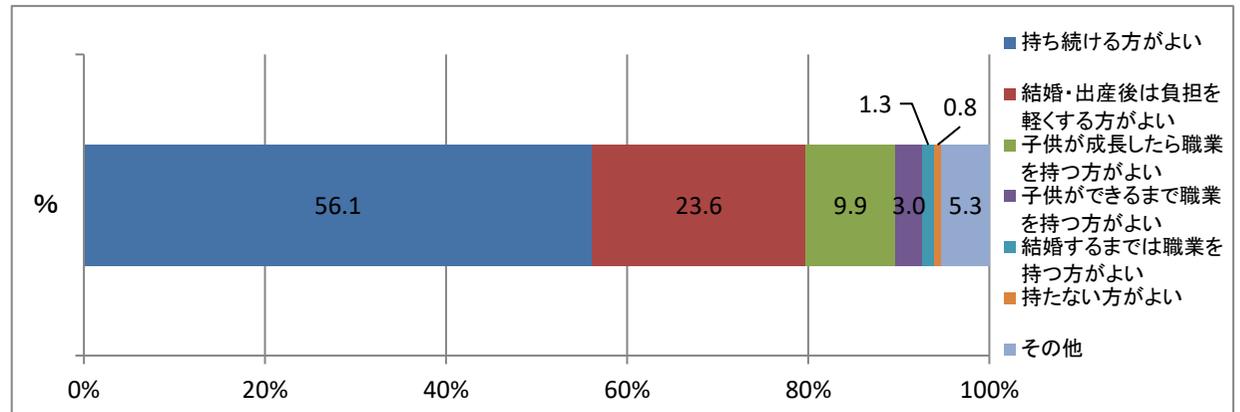
【問3】ご自身の周りで、女性活躍は進んでいると感じますか？

内訳	人数	%
進んでいる	34	5.6
どちらかといえば進んでいる	183	30.2
どちらともいえない	178	29.4
どちらかといえば進んでいない	136	22.4
進んでいない	75	12.4
合計	606	100.0



【問4】 女性が職業を持つことについて、どのように考えていますか？

内訳	人数	%
職業は持ち続ける方がよい	340	56.1
結婚・出産後はパートタイムに切り替えるなど、負担を軽くする方がよい	143	23.6
子供ができれば辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	60	9.9
子供ができるまでは職業を持つ方がよい	18	3.0
結婚するまでは職業を持つ方がよい	8	1.3
職業を持たない方がよい	5	0.8
その他	32	5.3
合計	606	100.0



【問4-1】 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者32人)

型にはめる事では無いです。個人個人で望む様に生きるべき。
 どうすべきと決めるべきではない。職業を持つことも、家庭で子育てに専念することも、地域でボランティア活動することも、どの選択をしたとしてもそれを尊重し、それぞれが活躍していると考え、その生き方を社会は応援すべきだ。
 自由意志が尊重されればよい。
 職業を持つ・持たないに拘わらず、本人が求めるライフスタイルをいつでも選べるのが望ましい。
 人それぞれだと思うので特に考えを持っていません。
 「こうあるべき」ではなく、女性一人一人が望むようにすればよいと思う。
 女性だからという区別なしに様々な生き方を自由に選べるのがよい。
 仕事を続けたい人も専業主婦やパートを希望する人もそれぞれの考えが尊重されれば良いと思う。
 好きにすればいい。女性の仕事が増えるからと言って家事が減るわけではないので、負担増の方が多くなる人が増えるだけだと思う。女性の社会進出とならんで、男性の家事・育児進出が必要だと思う。
 自由でよい。
 できることできないことあると思うので、やりたい風にやればよいと思う。
 その方のライフスタイルに合う働き方を選択していけば良いと思う。
 ケースバイケースなので、一言では語れない。世話のできる実家の母が近くに住んでいるのであれば、結婚して、子供も産んで、は比較的簡単だと思う。晩婚で出産も遅いと、子育てと介護が重なる人もいるだろうし、夫婦共に不規則な就業形態の方もいるだろうし。
 本人の意思が大切
 自由だと思います。持ちたければ持ったらいいし、持ちたくない人は持たなくていいし。白黒ハッキリなくていいと思います。
 本人がしたい事をすればいいと思う。
 働きたい人は働ける、家事・子育てに専念したい人はそうできる、両方したい人は両方できる、男の人もそうである、でいいはず。なぜ、働く方がよいだの、やめるべき、だのという話になるのか、逆に私には分からない。
 個人の希望に沿えば良い。
 こうするべきという考え方がおかしいと思う。家庭によって色々事情は変わるし、本人の希望もあるので、一概には言えない。ただ、本人や配偶者が希望した時に、その選択が取りやすい環境であってほしいと思う。問1にはその他が無かったのと世間の風潮を考慮して仕方なく反対としたが、本当に本人達が望んでいるなら女性が家庭を守っても良いと思う。
 ケースバイケース。受け皿としてはいつでも働けるように、女性側は個人個人の判断で。
 個人の自由でいいと思う。

当事者の意見を尊重すべきだと思います。但し、労働意欲のある女性が活躍できる環境は整えてあげたいと思います。

本人がやりたいように選べるのが大事だと思います。

結婚した際の仕事を継続するか負担軽減するかという選択に関しては、男性側の収入状況や育児への参加如何によって変わってくる。女性が社会に出るということは男性の家庭内での仕事も増えるべきであり、女性だけの変革の問題ではないと考える。

持つことはすごくよいと思うが、子供が出来ると手助けなどが少ないので正社員→パート→専業主婦などと働き方を変えなくては行けない。現実的に正社員でずっとやっていくのはかなりむずかしい。

旦那の給料では生活出来ない。女性の給料もフルタイムで勤務していても低いので、男女平等とは言い難い。独身女性は、どのように生活を成り立たせたら良いのかと思う。

共働きしないと収入の面で大変である。出産を政府が声高に叫んでも、保守的な年代の私などからすれば、まだ首もすわらない乳飲み子を預けるのは忍びなく、保育士さんにしてもかなり気を使うと聞いたことがある。妊娠出産が済んで同じ職場に復職できるようにならないものか。とは言え雇う側は難しいと思うし、親と同居は嫌がるし、全ての面でうまくいく策はないものかと思う。職場の上司、同僚の理解が得られないと親は心身ともに疲れてしまわないか。何か良策はないかと思うばかりです。

出産、子育てしながら仕事を続けるのはかなり困難です。職場や家庭の環境が整う努力が必要だと思います。

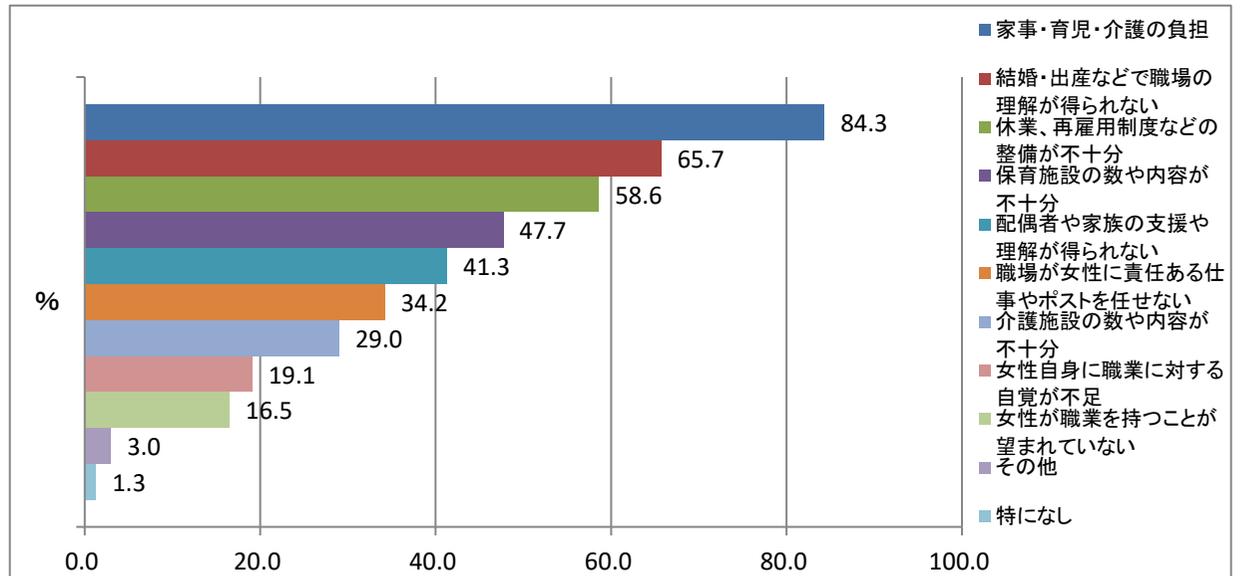
労働環境などは機会や待遇についての格差があってはならないが、国民全員から税を徴収する仕組みに変えられているように思う。従来は主婦になると税控除の対象でしたが、それを無くす方向の為ではないかと思います。

個人、またパートナーとの相談で決めればよい。外で働く方がえらい、子供がかわいそうだから家にいるほうがよい、など言うべきではない。また『職業』のなかに家事育児が含まれていないことには腹立たしい思いもある。

こうあるほうが良い、なんて決める必要はない。家庭の事情によるので、質問がおかしいと思う。女性活躍は仕事だけではありません。仕事するのが良いか、なんて結局生き方を決めつける点では、家庭を守るべきと同類だと思います。

【問5】 女性が職業を持ち続けていく上で、問題になっていると思うものはありますか？

内訳	人数	%
家事・育児・介護の負担	511	84.3
結婚・出産などで職場の理解が得られない	398	65.7
産前産後休業や育児・介護休業、再雇用制度などの整備が不十分	355	58.6
保育施設の数や内容が不十分	289	47.7
配偶者や家族の支援や理解が得られない	250	41.3
職場が女性に責任ある仕事やポストを任せない	207	34.2
介護施設の数や内容が不十分	176	29.0
女性自身に職業に対する自覚が不足	116	19.1
社会通念として女性が職業を持つことが望まれていない	100	16.5
その他	18	3.0
特になし	8	1.3



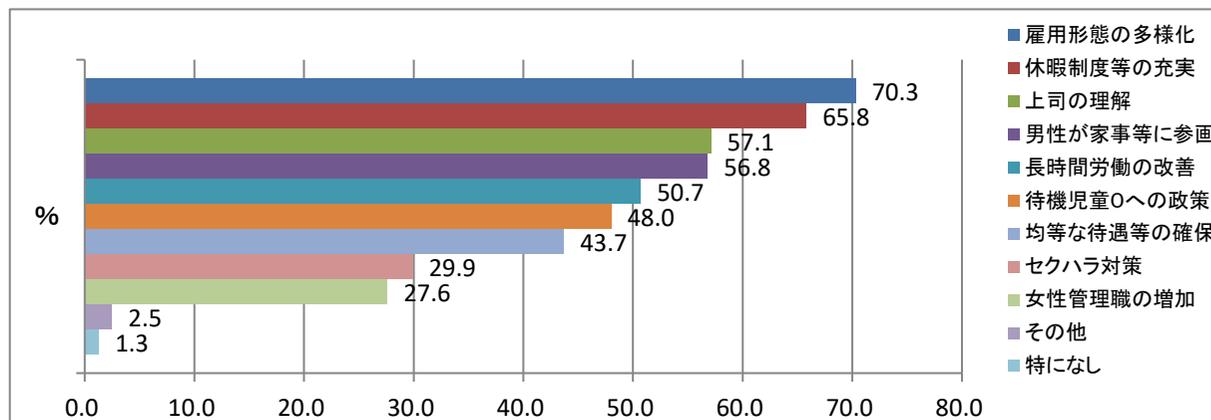
【問5-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者18人)

女性自身に主婦業の概念がある。
 日本社会の後進性が根強く残っており、社会的理解が進まないのが大きな原因だと思います。
 社会通念として、女性が家事・育児をすることが当たり前だという意思が拭えない。女性が社会で活躍することよりも、男性が家事・育児をできる環境を整えれば、お互い理解し合い、自然と女性が活躍できる場ができると思う。

男性の意識の低さ
 小学校低学年の子供が放課後に一人で通える距離や場所に習い事が沢山あれば助かる。共働きだと保育園児までが夕方まで安心できる場所があるが、小1、2が若竹で遊ぶだけという環境が不満。習い事させたければ送迎のために母はパートなどまでしか選ぶことができない現実。
 夫が単身赴任で遠方において、妻が転勤で遠距離通勤を強いられており、帰宅が午後8時を過ぎる。小学生の子供は一人で母の帰りを待っている(学童保育も8時までは無理)。子供の急な発熱で休めないなど。
 先進欧米諸国のようなベビーシッター制度がないから。
 親の介護に近い状態の中(要介護などは無し)では仕事に就きにくく、自身も精神疾患を持っている障害者な為短時間で少なく家の環境に合わせて働ける職場が見つからない。シングルマザーの方には手厚いが障害者と、介護をしている側の働く条件は実に渋いのが和歌山市です。とても困っております。
 社会で活躍することを、職業を持つことのみと考えている制度設計の問題。旧姓使用を認めることのない実情の問題。和歌山で旧姓使用を実質的に認められていない場面が多すぎる。教員に旧姓使用している人が皆無であること、旧姓使用が当然ではなく、使わせてやっているのだという和歌山独自の社会通念。
 会社が柔軟な働き方を認めてくれること。フレックスタイムや時短勤務など。
 労働時間が長い。
 社会保険の130万円の壁
 男女間にある賃金格差
 男性の育児休暇など設定されていても、なかなか取れる雰囲気ではなく活用されていないのが残念です。
 専業主婦が多かったころに行われていた無償の活動(子供の通学時の見守り・旗振りやごみ収集後の掃除など)は、働く男性が行っているところを見かけることは少ない。見えない家事と同じように見えない自治活動をどうするか考えていかなければいけないのではないのでしょうか。
 多くの男性が期待している組織人としての働き方と、女性ができること・しがちなことがそぐわないため、数の力で一向に視野の広い働き方が浸透しない。
 配偶者の職場環境が家庭や育児を考えていない。

【問6】女性が社会で活躍するために、必要だと思うことはありますか？

内訳	人数	%
雇用形態の多様化(柔軟な雇用)	426	70.3
育児休暇制度や介護休業制度などの充実	399	65.8
上司の理解(イクボスの育成)	346	57.1
男性の育児・家事への参画	344	56.8
長時間労働の改善	307	50.7
待機児童ゼロへの政策	291	48.0
男女の均等な機会・待遇の確保	265	43.7
セクシュアル・ハラスメント対策	181	29.9
女性管理職の増加	167	27.6
その他	15	2.5
特になし	8	1.3

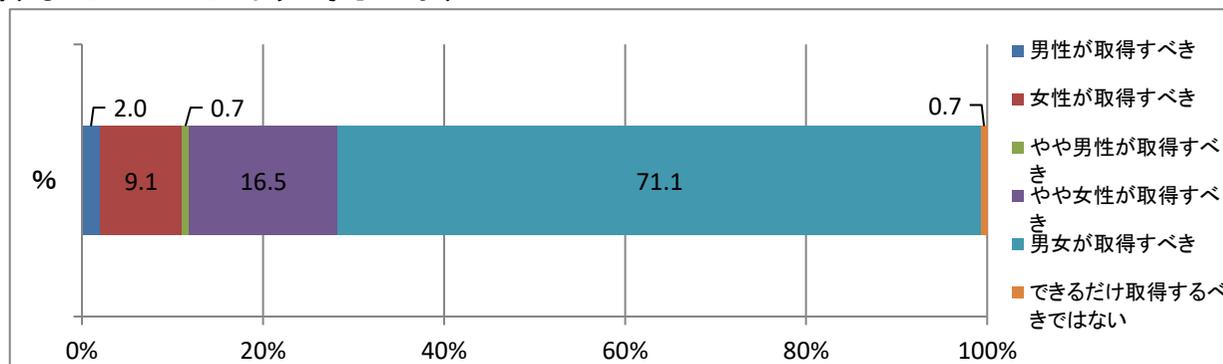


【問6-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者15人)

職場だけでない周囲の理解
 家族や親戚などの理解と協力
 祖父母の協力
 民主主義社会の在り方についての、根本的教育が必要と思う。
 働くことに生きがいを感じて進んで働くことには賛成ですが、働かなくても夫の収入で十分な社会にしていきたいと思います。働かないと食べていけないから仕方なしに働く、安心して保育所に預けられない若い人もいます。男女どちらよりまずは安心して暮らせる世の中を目指すべきではないかと思っています。
 地方議員、国会議員の女性議員の比率を上げる。義務教育で政治参加への意識向上。北欧に学ぶところが多いのでは。
 小学校低学年の子供が放課後に一人で通える距離や場所に習い事が沢山あれば助かる。共働きだと保育園児までが夕方まで安心できる場所があるが、小1、2が若竹で遊ぶだけという環境が不満。習い事させなければ送迎のために母はパートなどまでしか選ぶことができない現実。
 学童などでの子供の教育
 旧姓使用を実質的に無制限に可能とすること。
 先進欧米諸国のようなベビーシッター制度の確立
 時代の変化により終身雇用が望めない今、雇用されるだけでなく自身で企業したり、自身のスキルや特性を活かせる職業に就くことが早道だと思う、企業や雇用主も成果第一な時代だと思うので特に思うのが子育て責任を企業に持たせようとする国が悪い気がする。
 女性は結婚するまでは社会で思い切り活躍してOK、しかし、結婚すれば家庭をそっちのけで、社会へでて仕事をするなという事です。
 パートでの時給は男女同じなのに、正社員となると男女で差が出てくる。
 介護や育児でできないことは、はっきり言うことも大切ではないか。出来ないことを推し量ってほしいという空気になっているが個人差があることなので、本人が発信することも大切ではないでしょうか。

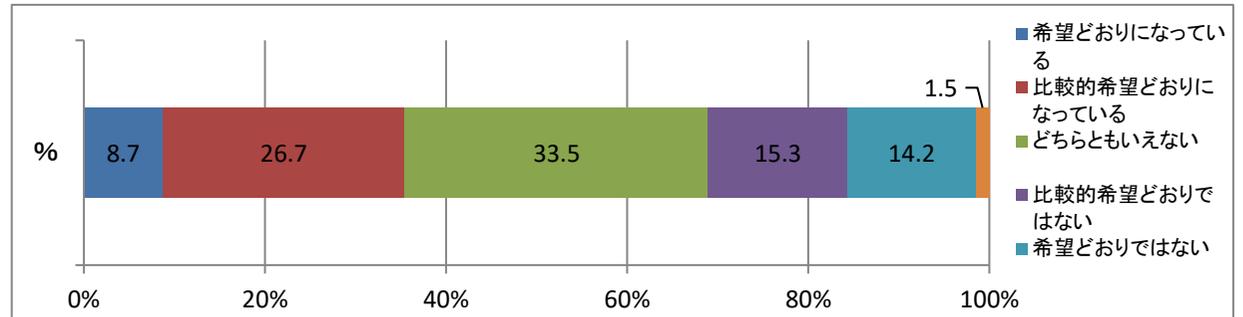
【問7】 育児休業、子供などの看護休暇、介護休業、介護休暇を取得することについてどのように考えていますか？

内訳	人数	%
男性が取得すべきである	12	2.0
女性が取得すべきである	55	9.1
どちらかといえば男性が取得すべきである	4	0.7
どちらかといえば女性が取得すべきである	100	16.5
男女が協力して同程度の期間を取得すべきである	431	71.1
できるだけ取得するべきではない	4	0.7
合計	606	100.1



【問8】 ご自身のワーク・ライフ・バランスについて、どのように感じていますか？

内訳	人数	%
希望どおりになっている	53	8.7
といえば希望どおりになっている	162	26.7
どちらともいえない	203	33.5
どちらかといえば希望どおりになっていない	93	15.3
希望どおりになっていない	86	14.2
その他	9	1.5
合計	606	99.9



【問8-1】 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者9人)

仕事ももたず育児も卒業しているため。

無職

既に定年退職してます。在職中は、思い通りとはいかなかったけど、思い通りと言う考えは持ってませんでした。歴史ある大企業で、良い会社で働いた事に誇りを持っています。まず誇りを持って働けるかが基本かと思います。

私は専業主婦なのでワークバランスはわかりませんが、周りの人を見て答えました。専業主婦も専業主婦なりのワークバランスがあります。

そういう時代に社会にいなかった。

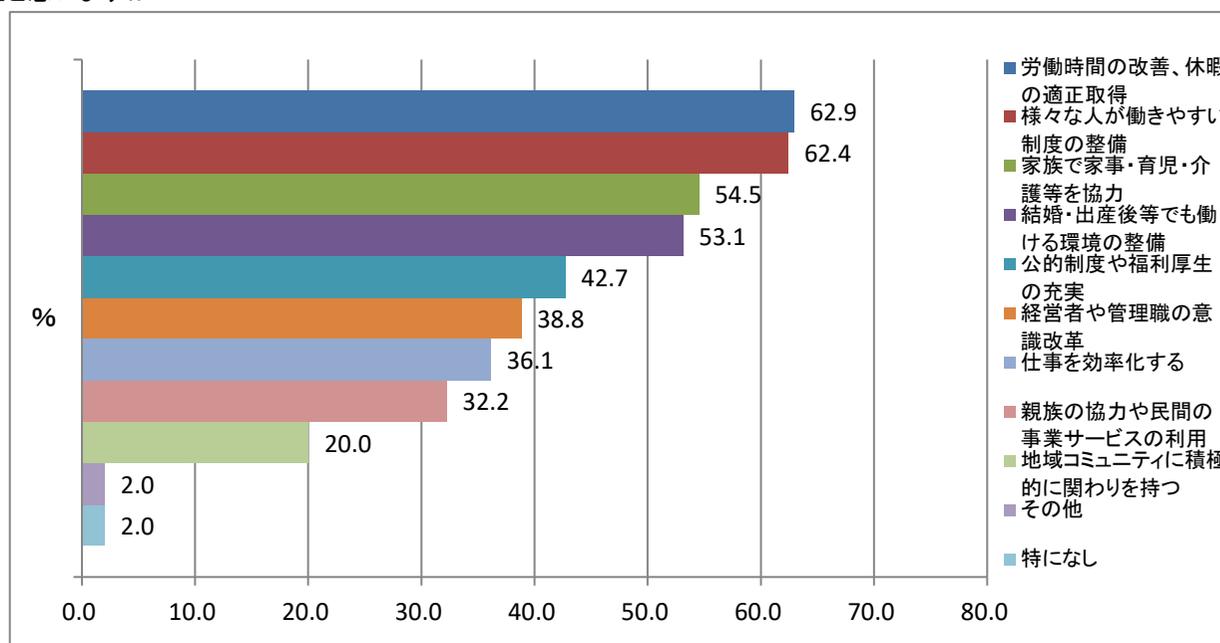
よく分からない。

家族の通院送迎や買い物送迎で、自身が就職できない。(家族は運転免許を持っているが、運転に自信がないとの理由で、全ての外出に送迎が必要。)

死別の為、労働も育児もどちらもしないわけにはいけないため。

【問9】 ワーク・ライフ・バランスを実現するためにどんなことが必要だと思いますか？

内訳	人数	%
長時間労働の改善や、週休、休暇が適正に取得できること	381	62.9
育児・介護休業、フレックスタイムの導入などの制度の整備	378	62.4
家事・育児・介護などを家族の希望に応じて協力し合うこと	330	54.5
結婚・出産などのライフステージにかかわらず、働ける環境が整う	322	53.1
公的制度や福利厚生の充実	259	42.7
経営者や管理職の意識改革	235	38.8
短時間でも成果が得られるよう、仕事を効率化する	219	36.1
必要に応じて、別居の親族に協力を求めたり、民間の事業サービスを利用する	195	32.2
地域コミュニティに積極的に関わりを持つ	121	20.0
その他	12	2.0
特になし	12	2.0



【問9-1】 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者12人)

配偶者の転勤により、実両親が遠くに住んでいる。子育てしつつ介護しつつ仕事を持って男性と同等に働くためには、家族の協力が不可欠。経験していないのでわからない。副業をアリにしてほしい！

個々で状況が違うからそれぞれに合った方法を考え実践すること。

和歌山には、時短や子供都合での早退欠勤を認めているパートがありながらも、実際の職場ではそれはしにくいところが多すぎる。その改善。嫌な顔をするスタッフが1人でもいるならば、それを謳うべきではないし、他のスタッフを面接する段階でも「子育て主婦を積極的に採用するので、負担もあるかもしれない」旨を伝えるなど。

賃金が低ければ休みの日に別に働くのでまずはお金からでしょう。

結婚していなくても、女性ひとりでも、子供を産み育てたいと思う人を応援する、多様性の尊重マインドが、行政には決定的に欠落していると思う。その最たるものが、地方自治体による婚活支援。産めよ殖やせよの思惑、押しつけを感じる。

先進欧米諸国のようなベビーシッター制度が必要。

自分がどのような生活を送りたいのか考えて、有償・無償のサービスを利用する。今は、ネットで色々なサービスを調べられるが、心に余裕がなくなっているからではなかなか難しいので、私は介護の時に地域包括センターに相談できて良かった。介護や子育てなどで困っているとき、方向性を一緒に考えてくれるところがあればよいのではないのでしょうか。

学校制度の見直し(授業時間数や長期休暇や学童保育など)

そもそも、働き方がワークとライフに分かれていない。ワークがライフですし、ライフがワークです。そこまで追求しないとワークも面白くない。

【問10】 女性活躍推進に関わることに关するご意見などありましたら、ご記入ください。

出産し子育てする中で仕事を続けるのは大変です。子供を預ける保育園では熱が出たらお迎えに行かなければならないので、病気の子供を診て預かってくれる病院併設保育園が出来ると夢のようだとママさん達は思っています。私はもう定年前の年齢ですが、この年になると介護とか清掃の仕事ばかりです。子供に手がかからず時間の融通もきき頑張りがかきシニア前年齢の女性も活躍できる環境を推進して欲しいです。

育児に無理な男性に育休を強制しても、妻側が困るだけ。同様に、男性が2週間や2か月程度の育休を取ったところで、妻側の負担は軽くはならない。現代社会に必要なのは、女性や男性が育休を取るのではなく、安心して子供をみてもらえる人を作ることではないか。そのために、地域での子育て支援に税金を投入して欲しい。

子供が幼稚園に行ってる時間帯9時から14時のパート勤務の雇用が少ない。働きたくても、この時間帯は決まるとなかなか、辞めないの、空きが少ない。もっと雇用を増やして欲しい。

女性活躍となっているが、そのための整備が不十分

人が少ない和歌山だからこそ、テレワーク等のパートや正社員を増やせばいいと思う。同時に2社掛け持つなど、企業にも人件費の節約になるし、もっと企業がテレワークに柔軟になってほしい。

男性や上司の理解はもちろんだが、やはり仕事を続けるためには、1人1人の業務負担の見直しが先決。そうでなければ絵に書いた餅になってしまう。

和歌山市・県の行政は女性活躍の場の提供方法を真剣に取り組んでいないのでは？一例として、JR和歌山駅の観光案内所は人手不足らしくて殆ど閉めている状態です。女性の雇用を指導するのはどうですか？

出産後などに急に休み、そして復帰と変化の幅が大きいので、周りも本人も負担が大きい。社会全体に週4や週3などの柔軟な働き方をする人が事前からたくさんいれば出産や育児介護で急に仕事量を変化させる必要は無くなり、今よりも緩やかに対応できると思います。

そもそも個人事業主だと育児休業など取れない。育児休業時の代替人員については育児休業から復帰した段階で余剰となるのでその場合の処遇がはっきりしない。

身体に関わる医療以外の場面では「性別を問わない」ということが重要になると思う。性を分けなければならない場面は、実はごく僅かしかない。慣例・習慣で分けている場面を改善するべき。

法的拘束力がなさすぎると感じる。遵守させないと意味がない。

男性にばかり家事の分担を強いるのはもう限界。男性の賃金を低くして、女性を働かそうとする、社会に引っ張り出すせこいやり方はやめてください。

男女を問わず、官民一体となって、取組みを強化する必要がある。

男女共に育児休暇は必要と言うけれど、どうしても給料は男性の方が高いので休暇取得で給料が減ると死活問題になります。

女性が多く活躍する職業なので理解は得られる面が多いが、年功序列での結婚、出産がベターで守れない人は弾かれるような事があると知人より聞く。また残業時間が長いことも女性が働く事を難しくする要因と考えます。

主婦ほどしんどい職業はないことを理解していれば、女性が損するような状況はないと思います。ですが、育児に関して言えば、女子トイレにしかオムツ交換の場所が設置されていないことも多く、環境を整えることも必要だと思います。

男性の育休が制度としてある企業であっても、実際取得する男性が少ないなど利用しにくい環境であれば意味がない。男性の育休取得率が高い企業にするにはどうしたらいいのか考えるべきである。

女性特に配偶者となった人の収入枠を引き上げてほしい。働きたくても制限があって働きにくいです。

まだまだ不公平な社会だと思います。子供にとって母親は絶対的存在です。それを思うと、社会で活躍することだけが大切だとは思いますが、育児や家事が落ち着いたとき、例えばブランクがあってもスムーズに社会に戻っていける環境を整えれば良いのではないかと感じます。

三歳児未満だと保育園料も高いので、パートならマイナスになってしまう。

使用者は短時間でも仕事できる機会を作るべき。

和歌山は全然進んでいないと思う。子供が病気の時は女性が早退する機会が多いのに、待遇は女性に対して悪すぎ。女性が上司でも理解度が低い。

女性に対する家事や子育ての負担などを軽減して欲しい。

現役時代(他都市です)、女性管理職、女性の活躍、男性社員の育休はありました。社会全体の啓蒙、受け皿が必要でしょう。

女性が働き続ける職場の増加を望みます。

意識改革の継続(教育)。新しい制度の導入(女性議員の割合増加50%)。

私自身、小さい子を2人育てながら正社員で働いています。今後も働き続けるには子供を育てるためのサポートが必要。受け皿となる福祉サービスの充実、職員数と質の確保が、女性が社会で活躍し続ける事につながると思います。

まだまだ社会が受け皿になっていないと思います。

和歌山では主婦のすき間時間に働ける効率の良い仕事が少ないと思う。TVで見たような企業からの依頼を受けてご近所ワークできる所があるのが理想です。

男女共に育児や介護休暇の取りやすい環境整備。半日休暇や、短時間就業など。

産休や育児休暇の制度のない会社、既婚女性に不利益な制度(出産後は正規から非正規にされる)の会社。これから子供を預けて仕事を持ちたいと思っても、現に仕事を持っていないと保育所(こども園)に入れない。新規にこども園を建設しようとする近隣から建設反対が出る。保育所が集約され遠くの保育所に通わされる。日本は家事は女性がするものという社会通念?があり、また女性の議員、管理職が極端に少ない男社会である。女性活躍に上げればきりが無いほど足かせが多い。

確実に完璧な法整備が大事なのはと感じます。まだまだ日本は男性社会旺盛なので。

今の時代はお給料が安く共働きしないとやって行けない時代。しかし子供を産んだら預ける場所が無いと少子化が進む原因である。中々女性が働いて行くのは大変です。育休を取ることに世間では中々寛大ではなく女性の管理職も難しいと聞きます。しかし真面目に働いてるのに女性だからと色々なことを諦める時代ではもう無いと思う。市や県がもう少しバックアップして欲しいです。まずは保育園の増加から手がけてみてはと感じる。

正直、推進の偏りが酷い。自宅介護の中で短時間で働くための推進も入れて下さらないと家族共倒れになります。

人手不足の昨今、女性の戦力がより発揮できる環境整備が不可欠と考えます。

基本的に女性は子供の育児がメインの仕事と思う。身体能力と頭の使い方など考えるとそのほうが社会全体を見たときに効率がいいと思う。子供が大きくなったらしたい仕事をすべしように思う。なかには仕事を望む人もいると思うのでそういう人たちのために環境は整えておいた方がいいと思う。しかし、無理に女性が社会で活躍するような雰囲気をつくる推進運動は入らないと思う。

社会全体が協力体制の構築、女性の地位向上。

法律による改革が必要

そもそも市役所や県庁が、偏った男性社会なので、女性の働きづらさを正しく汲みとれているか疑問。管理職の男女比率を是正してはどうだろうかと思う。

世代交代とともに、人々の意識は少しずつ変わってきているとは思いますが、まだまだ不十分です。時間や費用はかかっても、行政が施設・制度等の整備を進めつつ、民間と協働して啓発活動等を地道に続けていくことで、状況は改善されていくと思います。小学生の娘たちが、自分の夢をあきらめずに生きていけるような社会の実現を望みます。

中小企業の女性への待遇を考える事が大事。まだ男性社会的な考えが多い。

育児、介護休業を取りたくても周りに気を使い取れない人達が多いので人員増加を直ぐに出来る職場になってほしい。

私の周りでは、出産しても正社員で活躍できている女性は、夫と祖父母の協力が必ず揃っています。そこまで先を考えたライフプランが大切だと、学生や新入社員時代から女性に限らず知るべきだと思います。一度離職をしても、同レベルから仕事を頑張りたいと思える社会に、和歌山から変わってほしいです。

自宅で仕事が出来て、短時間である程度の収入がもらえる環境があればいいのにと思う。

先ずは、女性の意見を聞き入れる仕組みを構築してほしい。

仕事上で東京や横浜の会社の人と話す機会が多いのですが、結構、管理職で女性が多いですよ。地方ほど昔かたぎな考えをしてる人が多い気がします。団塊世代の人達の考え方が、もっと柔軟になれば女性が社会で活躍出来る場も増えて行く気がします。

安心して子育てできる、育休制度や保育施設の受け入れがあれば、女性が自分の仕事を持ち続けながら、社会の一員として活躍し続けられると思います。高齢化社会の中で、女性の社会参加は必要だと思います。

以前、「何でもみな結婚後、出産後正社員じゃなくてパートに変わるのか、自分がその立場になったら分かった」と、結婚前まで銀行で働いていた友人が言っていました。子供が急に熱を出した時、すぐに早退したり、休暇を取ったり出来る、正社員だと責任も出てくるしそうはいかない。そこだと思います。いざという時、遠慮したり、気を使ったりせず対応出来る。周りの対応、フォロー出来る様な体制を整える事が必要だと思います。

育児の必要な場合の支援体制の充実が大事だと思います。公私に亘り。

もっと気軽に家庭内でベビーシッターを雇えれば。

まだまだ女性差別や雇用機会が均等になっていません。また、女性同士の職場でもマタハラは起きています。待機児童ゼロにこだわるだけでなく、行きたい保育所に入れてこそだということをまずは強く求めます。小1の壁と呼ばれる学童保育の開所閉所時間も長くしてください。ファミサポも利用しづらい、一時保育もなかなか利用できないという声も聞こえてきています。頼れる親戚もいない人は働けません。面接で落とされています。一つのところで長く働くことだけでなく、育児に専念して、また働きたい人も勤めやすい職場が作られてほしいと思います。

法律だけが先走りではなく、住民の意識を高める事が重要だと思います。

男女とも平等に意識を持ち協力していく基盤となる制度も作り、意識も改革していく社会になってほしい。

既婚の男性の考えは仕事は続けてもいいが家事をおろそかにするなという人が多いと思います。その考えを変えてほしい。

制度も大事だけど、社会に既に根付いている「こうあるべき」という女性の自由や意志を抑圧する意識の改善にも取り組まなければ制度の周知や理解に繋がらないと思う。

特に和歌山では、男性の方の意識が低いと思います。女だからというだけで、能力がきちんと認められていないし、できる女は逆に敬遠される雰囲気がある。まずは皆の意識改革が必要だと思います。

男女が共生しての社会、お互いを理解尊重してこそ。

育児休業等については、男性・女性いずれが取得すべきなのか、あるいは男性・女性が同程度の期間取得すべきなのかは、一概には言えないと思います。家庭の事情に応じて千差万別だからです。仕事面・家庭面に鑑みて、「最適」と考える方が、「適切な期間」を取得するべきだと考えます。いずれにしましても、「女性がとるべき」、「男性がとるべき」、あるいは「男性・女性双方がとるべき」といった固定観念を、社会から拭い去る必要があると思います。

絵に描いた餅です。社会全体の意識が低すぎます。

女性が活躍できる適正な職種や職場環境の改善及び男女ともに意識改革必要

女性が活躍することは望ましいことである。ただ女性・男性ともにそれぞれに特性があり何でも平等とはならない。お互いにその点を理解し協力することが必要だと思う。

男性の意識改革を含めて和歌山はまだまだ遅れていると思う。けれど女性側もそこまで仕事で活躍したい！と思っている人もあまりいないと思う。

私は9年前、フルタイム正社員で働いていましたが、会社の上司の女の人に、妊娠を伝えると辞めてくださいと言われました。退職の理由にも本人の希望というところに丸をつけるように強要されました。まだまだ理解が少なかったんだと思います。私としてはできれば続けたかったです。もっと女性に対して理解が進むといいと思います。

まだまだ女性が子育てしながら働き続けるためには、改善していかなければいけない、意識や制度があるように思います。和歌山市で子供を産み、育てていくために、これから大きくなる子供たちのために、より良い政策が進むよう期待しています。

日本では男尊女卑が普通だった時代がつい最近なので、フォローや支援は必要だと思うが、当たり前の権利では無いと女性にも考えてほしい部分はある。時代が変わり生活が変わり家族形態も変わっているのだから。男性も同じく女性が家事食事子育てをしなければならぬみたいな考えが捨てなければいけないと思う。女性活躍賛成です。

制度は充実しているのに、現状として和歌山市では一部の目立った女性しか活躍していない印象である。とても残念だと思う。男女双方に、時代の流れから取り残された意識の未成熟があるように感じる。

考えに偏りのある経営陣のおかげで、女性であるだけで昇進の機会がゼロになる会社にいます。いくら国や自治体が推進しても、経営陣の意識を変えなければ絵に描いた餅です。職場に保育園を作る。子供は宝。みんなで一緒に育てようという意識

管理職の再教育が必要

制度を決める政治家達が高齢の男性ばかりでまだまだ差別的だと思うので、その意識改革をまずすべきだと思います。

お互いに人として尊重しあうことが大事と思う。

結局は配偶者の男性の考えによって大きく左右されていると思う。

まだまだ周囲の理解が足りていないと思いますが、女性自身の意識も低いと思います。女性の責任を持って自信を持って働いていこうという意識が高くなるような社会になればと思います。

今の日本では、まだ何十年も無理だと思う。祖父母世代の高齢者や管理職等の多くの上司が、女性は子育てと家事をすべき、して当然という古い考えなので、その人たちが居る限り、夫の協力(育休等)は得られない上に、女性が社会で活躍することは無理だと思う。

時代は変わったので、男は仕事して女は家庭を、と言う考え方は捨てたほうが良い(特に年配者)。個々の家庭や世帯状況が多様化する社会の中で、福利厚生や柔軟な勤務形態を各事業者整備する事で女性がかつと活躍できる場が増えれば、違った経済効果もあると思う。

仕事は続けたいが、同居高齢者の理解が得られにくい。女性はなるべく家にいることがよいの考えがある。

これに関しては人それぞれの考え方を尊重できるようにしてほしい。家庭で役割があるだろうし、女性でしっかり働きたい方もいれば、働きに出るより家庭を守りたい方もいらっしゃるし、働きに出なければ生活が苦しい方もいらっしゃると思います。そんな方々が色々な選択肢を選べるように、まず～すべきという言い方、考え方をなくしてほしいです。結局それは誰かの考えを押し付けているだけだから。

女性が活躍できる制度の充実は勿論必要だが、女性自身が意欲を持つ事も重要であり、その為の教育や努力を各企業が独自に行う事が必要である。

男女に限らず働く意思のある人にはストレスの少ない社会の理解が必要と思われる。

性別による役割固定化という古い考え方から脱却することが、女性活躍推進の基本であると共に、ワークライフバランスの推進にもつながると考えます。

案件を出しても「前例がない」ということだけで却下されたり、反対に上司の手柄にされたり、まだまだ活躍できても推進躍進までいかないのが現実かと思っています。今でも悔しい想いをしている女性達は多いはずです。

時間の縛りが多く感じる。効率よく仕事をこなし帰ることのできる仕事環境が望ましい。男性に育児休暇等与えても協力するのは極一部と感じられる。出産した人、子育て中の人には特に管理職を与える必要はない。子供の体調不良などで休む必要があるときに、素直に有給も取れなくなる環境になってしまう。キャリア重視、子供重視、人によって重視しているものが違うので選択することができれば、働きやすい社会になると感じられる。

言われたして時間が相当経過していますが、今この問題を取り上げたのは好ましくない状況が続いているためですか。人それぞれですがどんな人生設計を立てるか、ではないでしょうか。そして社会が如何にサポートできるか、では無いでしょうか。

女性の活躍が、職業を持って働くこと一点に絞られていることがそもそもおかしい。職業を持つことももちろん素晴らしいこと。でも、家庭の都合で子育てに専念することも、家事や介護を担うことも、ボランティアに専念しつつ家事を担う人も、孫のお世話をする人も、それぞれがみんな活躍している。それを忘れていたかのような付け焼き刃の「女性活躍推進」は、当事者の意思や置かれた状況を無視した乱暴な政策だと感じる。それぞれの選択を尊重できるようにすることが、本当の「女性活躍推進」だということを忘れてほしい。あえて女性と言う事に違和感を感じます。確かに出産は女性特有の大きな大切な事ですが、活躍に男女を分ける必要は無く、個人の様々な能力、資質が重要だと思います。世界の国々のどこよりも、日本の男性は女性を大事にしていると思っています。大抵の家庭では稼ぎの全額を家計に入れ、夫が働き、妻が家を守る。日本の文化なので、急いで女性の社会進出を図らなくても良いのでは？働きたい女性に対しての支援をもっと手厚くして欲しい。家庭を守りたい女性にまで社会進出しろと圧力をかけないで欲しい。社会や公的制度が変わっても、結局は各家庭や職場による。各人の考え方も違うから、本当に難しいと思う。企業や国の各機関のトップの男女比率もほぼ変わってない。個人差があるように思います。夫婦でよく相談することも大事だと思います。ただ、最近の若い人は働きたい人も多いと思いますので、子供をみる社会の体制が必要だと思います。キャリアを持ちたい女性は働き続けたいと思うし、それ関係なく残業をなくしたり労働の効率化は皆にとって大事だと思う。我が家は私が特に稼げるほどの仕事ができるわけでもないし、夫は職場が遠いため仕事に専念してほしいのもあり、家のこと育児は私がやっています。お互いがお互いを尊重できてるのが一番だと思います。ただ金銭的に働きたいと思っても、親など頼れる人がいないとパートに行くのも厳しいです。子供は急に病気になるので。うまい具合に子育て中でも働きやすくなると嬉しいですね。

その家庭に合った形に添えるようになれば良いと思う。

女性が働くことには賛成ですが、子供との時間を大切にしたいと専業主婦している人を非難してはいけないと思う。それぞれの生き方を尊重することが大切です。

どれが正しいということは、どの項目の質問に当てはまらないので各家庭の事情など、ケースバイケースだと思います。全ての項目で当てはまるのが、相手への思いやりだと思いますので、自分が思うこととしては、まずは当人同士の意思の疎通であり、それはコミュニケーションから各家庭における問題定義から始まるので、まずはそこからだと思います。

「男性は仕事をし女性は家を守る」昔ながらで、男性には力の仕事、パワーがあり、女性には家庭を支える知恵が備わっていると教えていただいた事があります。今の世代では男性育児や介護に力をいれ、女性にも活躍出来るアイデアやノウハウなど両方が得意と出来る部分が輝いて発揮できていると思います。無理な固定概念で「1人の人」としてその個性で企業や地域に貢献できると思います。差別なく協力し合っているような世の中が、理想で素敵です。

活躍推進法と銘打つと、女性皆が活躍しないといけないう流れを感じます。女性活躍自由化ぐらいでいいんじゃないでしょうか？

これは本当に個人差だが、少なくとも私の周りでは子供を持つと正社員ではなくパートに切り替えたいという希望者が多い。理由はもちろん子供と家の時間を持つこと、また自分の一人の時間も持つため。仕事を正社員でしているとかなりの負担が女性に降り掛かる。なので女性が社会で活躍したい人は別だが、そうでない人たちは活躍とは逆に負担軽減の方向が家庭をうまくやっていかせられると思う。

女性活躍には男性の働き方も改革する必要があると思う。残業になる程の業務を一人で抱えず、分業できるよう人員や作業内容を見直せば、そこに雇用も生まれ、女性だけでなくみんなが多様な働き方、暮らし方を選ぶことができればいいと思う。

今は専業主婦でも、以前は正社員として働いていた人もいれば、全く仕事をすることが無い人もいる。働きたくないけれど、経済的に働かざるを得ない人もいる。仕事に対する気持ちは個々で違うし、家族の状態や環境も違う。男性女性に限らず、個々の希望する勤務形態に近い形で仕事ができるよう、雇用側と労働者が対等に話し合いができる社会になってほしいと思う。また、女性に関して言えば、義父や義母の理解が得られるかというところが、とても大きいと思う。

女性男性に関わらず意欲と能力によって働くかどうかを選択できるようにしてほしい。

少子高齢社会（現在は人生100年又は120年時代と言われている）、もっと女性の力を活用すべきである。5兆円を超える防衛費を少し削れば養育費や介護費等十分賄える。

女性が活躍しやすい社会を期待しています。

まだまだ対等にはほど遠いと感じます。声をだして一步一步進んでいくべきだと思います。

女性も職業を持つに賛成です。夫婦共働きいいことだと思います。最近は学童保育があるので有難いと思います。

正直言って私は就職をしたことがありません。学校を卒業後各種お稽古事をして結婚そして専業主婦というコースを歩んできました。結果としては社会に出て色々学ばせて頂くべきだったと思います。それで今はボランティア活動に邁進していますが経験不足を痛感しています。子育てはやはり母性というものが女性には備わっているので主人や家族、地域の協力は欠かせませんが、一貫して担う方が家庭環境が穏やかに移行し子供にもいいのではと考えます。でも女性も社会では男性と互角の存在、扱いでありたいものです。男性と女性が居ての社会です。自ずと違いがあります。お互いそれを認め合い楽しい人生を、社会を築き発展させていければどんなにか素晴らしいことかと思えます。

これからも推進して下さい。

一度には無理としても、社会に女性の力を生かせるようお願いしたい。

今はありがたいことに女性を大事に政策を組んでくれますが、男女平等をお願いします。

まだまだ女性活躍が日本は進んでいないと思う。先進国として、頑張ってもらいたいと思う。

早くこういうことを考えなくていいようになってほしいと思います。

社会が男性が働くという仕組みで出来ているので、今の50代~60代が引退する事と、首都圏が率先して女性の社会での立ち方を推進していく必要がある。

従来は”男が稼ぎ、女房は子育てに”で良かったが、最近は各人の要求が高度になり、より良い生活を求め高収入が必要となってきている。この個人の要求が原因ではないかと思

います。女性が活躍するのは良いことだと思いますが、本当の幸せは何かとも思います。

妊娠中に医師からしばらく休むよう言われたと伝えたところ、その日のうちに解雇された。『産休とったとしても、戻ってくるところはないよ』とまで言われた。子供と仕事、両立できる世

の中になってほしい。

うちの職場は出来ていると思います。

和歌山は遅れていて腹が立つレベル。

女性ならではの活躍も期待できるので、結婚後、出産後も仕事をしてもらいたいのですが、どうしても出産前後や出産後の育児のために空白期間が出来てしまうので、継続的な仕事を担当してもらいにくいところがあります。何より当人が歯がゆいところだとは思いますが、その時のバックアップのためのマンパワーが得られにくい時に職場としては厳しいところ

があります。

まず何より女性の仕事に対する意識を高めること

妊娠、出産の時女性の方がどうしても負担が多くなりますが、生活のため、将来の年金のために頑張っておかないと将来大変なことになるような気がします。

女性活躍推進は賛成です。自分自身、出産で仕事を辞めざるを得なかったのが納得がいけないので多様な働き方があっても良いのかなと思います。

知っている女性でこんな人がいる、最初はパート勤務で、正社員になり、出産で1年強休職後、復活してパートで働いている人がいる。女性でも働きたい人はこうありたい。

女性の教育(入試)や就職(採用)に差別があったことが報道されましたが、才能のある女性の社会進出に許されることではありません。また仕事に対して女性の方々も甘えがあつてはならないと思います。

女性が活躍するのはいいことだし、自分の為だけならいつまでも働いていたいと思うけど、お母さんが働く分、子供に少なからず何かしら影響を与えてしまうと思うので、そうすると、女性は家で居てじっくり子供に向き合っ

てあげる方がいいのかなと思ったりします。

女性が活躍するには男性の働き方改革が不可欠です。夫が激務でとてもじゃ無いけど育児をしながら働けません。女性の活躍=仕事に出る、みたいな考えを辞めてもらいたい。家事育児を頑張る事も活躍ではないのか？

女性推進より経済復活が先。経済がよくなり収入が増えることが第一。一番大事な時期に母親がそばにいない時間があるというのは子供がかわいそうです。

少子高齢化になり、いずれ日本国が滅びる。子供が低年齢児は女性が幼児教育を行い、高校生以上は男性が成人教育を行う。男性はこの時期に子供と過ごす休暇を取るようになる。子供が小さいときには、男性の出番はないです。

女性が活躍する事は大いに賛成！ご自分の持てる能力を發揮出来る、男性よりも優れた方がいるのではないのでしょうか。最近の若い方は、働くのが当たり前だと感じられます。家事、育児から解放したいから、親や周りの(保育園など行政に)寄りかかっているのではとも思います。今の時代は何でもありですが、世の中を良くするのは、先ずは家庭を良くする

事の方が先決だと思います。

女性を活躍させたいなら男性もそれなりに優遇しないと逆差別との謗りを受けかねないので注意してほしい。度を越した女性優遇政策は女性の依存心を増長させるだけ。

男女平等にする事によって、育児については両親が考えて、休暇を取るのも半分づつにすればいい。そうする事で男性も育児や家事の大変さも知るし、互いに尊重もするだろう！子供にとっても良いと思う！

そうでもしないと進まないことは理解しますが、女性が女性がと何かにつけて、男性では取り上げられないことを取り上げているうちはまだまだと思う。意味のない性差別はナンセンスだが、なんでも性差をなくするのではなく、特長を活かす区別はあって良く、それを誰もが認めれば良いだけだと思う。

田舎ではほぼ無理だと思う。

それなりに女性が輝く社会になっていると思う。むしろ、輝かない男性が増えているかもしれない。

もっと女性の政治家をたくさん増やすことが肝要

どうしても女の方が負担が多くなる。夏休みや子供が病気になると働きたいと思っても働けない。

女性が女性の権利を主張しすぎるのは、あまり同意できない。主張するなら、男性と同じだけの仕事をこなす覚悟も必要かと思

います。

早く「女性の」と取り立てて言わなくてもいいようになるといいですね。

未だに男女では給料面が同じ額ではない所があります。女性1人で住むには難しい気がします。

今まで男性の仕事と思われていたお仕事に女性が進出されているのを見ると、拍手して「がんばって」と応援してしまいます。

女性活躍推進法は女性だけを対象にしており、表現がおかしいのでは無いか？均等法云々しているなら男女活躍推進法が正解ではないか？

自然体で取り組めばよい。

子育てがスムーズにいくよう願っています。

そういう環境じゃないのでわからない。

我が家は母子家庭でもあり、仕事、子育て、全てをこなす仕事が終わらなければ、一度、家に帰ってまた再び戻り残業もこなします。子供が塾に行っている間、プールで泳いでいる合間も資料や書類を作成しています。女性活躍推進と言う言い方がおかしい。

女性が社会で活躍するには賛成だが、独身者や結婚しても子供を持たない人達が増えているように思う。

まだまだ未熟だけれど、進めて行く事と考えます。只、見方を変えて女性を本当に社会が求めているのか？国がそうする事で、派遣事業が増えて社旗の貧困を増やしていないか？賃金が正当に支払われているのか等他に目汚向けの事がもっとあると思います。働いてもその分保育所に預ける費用が嵩む、家族に捻じれ現象を起こさせて、離婚が増加していないか、検討する事は沢山あると思います。

私の時代は中々休めず大変でしたが、今の若い方は簡単に辞めたら良いという強気なので職場でも意見が通りやすいようです。

資格を持つ事が大切。必要な人材なら、良い仕事はあると思う。

60歳以上の年配者だと、男性の方が再雇用の機会が多いと思う。

休みをとりましょう。

セクハラやパワハラを完全に無くすことが必要だと考える。

女性でも家事や育児が苦手な人もいますので、夫婦でどちらかが担えばいいと思う。和歌山でも子供がいない、またはシングルの方が増えてきているので、女性活躍推進のアンケートで出産や育児の質問項目が多いのは、いかがなものかと思う。

企業側による仕事の効率化の推進、個人的による能力アップの為の生涯学習。

こんなアンケートが今来ることほど、世間はまだそんな程度なのかとガックリくる。

まず「女性活躍」という言葉が大嫌いです。専業主婦は活躍していないという前提が根本的に間違っていると思います。日本の高度経済成長期を支えたのはサラリーマンの奥さんたちだと言えるでしょう。あの時代の猛烈サラリーマンたちが全員、もし独身だったとしたら、あれだけの経済成長を果たして実現できたかどうか？答えは自ずと明らかです。自分は妊娠・出産しないからといって、妊娠・出産する女性職員を身勝手だと言ったり、邪魔者扱いしたり、追い出そうとする男性の姿を見ると、生物として滅びの道を自ら選んでいるとしか思えません。それが出生率の急激な低下という具体的な形になって表れたのは、むしろ当然のことではないでしょうか。出産をする女性はすでに“大活躍”しているのです。自分の睡眠時間や入浴の時間、トイレの時間まで削って子育てする女性は“大大大活躍”しているのです。男性陣にはまずここをしっかりと認識していただきたい。「女性活躍推進法」という名称は、悪気のない差別と偏見に満ちています。悪気がないがゆえに非常に恥ずかしいネーミングです。国や自治体を動かす立場の方々には、まずこの恥ずかしさを感じるころからスタートしてほしいと願っています。

女性活躍と保護切捨てと同意とならない様に見張る必要があると思います。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。皆さまからいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、今後の本市の男女共生社会の実現及び女性活躍推進に関する施策の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。